

【資料】

感染症流行予測調査（平成13年度）

藤井理津志，濱野雅子，葛谷光隆（微生物科），妹尾安裕（保健福祉部健康対策課）

[キーワード：感染症，サーベイランス，ポリオウイルス]

はじめに

本調査は厚生労働省委託事業の感染症流行予測調査の一環として行われている。本年度岡山県ではポリオの感染源調査を実施したので，その結果について報告する。

材料および方法

感染症流行予測調査実施要領（平成13年度）および検査術式（平成7年度）¹⁾に従って実施した。

岡山市内のM保育園の健康な園児60人（0～1歳20人，2～3歳20人，4～6歳20人）からポリオ生ワクチン投与後2ヶ月以上経過した平成13年7月31日～8月3日の期間に糞便を採取し，FL細胞を用いてポリオウイルスの分離を行った。

結果および考察

下表に年齢群別ポリオ及びその他のウイルス分離成績を示す。ポリオウイルスの分離はすべて陰性であった。その他のウイルスとしてコクサッキーウイルスA9型（CA9）8株（1歳児5人，2歳児1人，4歳児2人），アデノウイルス5型（AD5）1株（0歳児1人），が分離された。さらに1検体（1歳児1人）からCA9とアデノウイルス型不明が同時に分離された。

CA9は岡山県内の結核・感染症発生動向調査では検出されなかったものの，平成13年度（3月26日集計分）の分離は全国的に6～8月に多く，エンテロウイルスの中で

表1 年齢群別ポリオ及びその他のウイルス分離成績

年齢群 (歳)	検体数	ウイルス分離				合計
		ポリオ	CA9	AD5	CA9 及び AD(型別不明)	
0～1	20	0	5	1	1	7
2～3	20	0	1	0	0	1
4～6	20	0	2	0	0	2
合計	60	0	8	1	1	10

は比較的多く検出されたウイルスである²⁾。全国的な分離状況を考えると夏期を中心として本ウイルスの浸淫があったと考えられる。

AD5は平成13年度の分離は全国的に季節的な偏りはなく，アデノウイルスの中では比較的多く検出されたウイルスである²⁾。岡山県内の感染症発生動向調査事業でも1株検出されたウイルスであり，全国的な分離状況を考えると本ウイルスの浸淫があったと考えられる。

その他にCA9とアデノウイルス型不明が同時に分離されているが，同一検体から2種類のウイルスが分離されることは希であり，園児同士の保育園内での濃厚な接触がうかがわれた。

文 献

- 1) 厚生省保健医療局 エイズ結核感染症課・国立予防衛生研究所流行予測事業委員会：伝染病流行予測検査術式，1995
- 2) 国立感染症研究所，厚生労働省健康局，結核感染症課：病原微生物検出情報，Vol.23，No.4，105，2001